

## 令和4年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報			
事務事業名	市民交流プラザ運営管理事業	担当課	のびのび子育て課
総合計画 政策	ひと	計画期間	平成20年度～
施策	子育て支援の充実	種別	任意の事務
基本事業(取組)	安心して遊べる場の提供	市民協働	事業協力
予算科目コード	01-030205-01 補助	根拠法令・条例等	児童福祉法

## なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？

背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
昭和62年度に、児童に健全な遊びを提供し、健康の増進と情操を豊かにすることを目的に児童館が開館（久保ヶ丘地内）。その後、児童の健全育成のほか子育て支援拠点として新たな設置要望が高まり、平成15年度に守谷市児童館建設検討委員会が発足し、施設整備について検討を開始。平成20年度に久保ヶ丘地内の児童館を閉館し、児童センター、家庭児童相談室、市民活動支援センター等が入る複合施設として市民交流プラザが開館した（指定管理者制度導入）。	<ul style="list-style-type: none"> <li>運営方法 指定管理者制度（アクティオ（株））</li> <li>指定管理期間 令和3年度から5箇年</li> <li>児童センター業務 児童に対する集団的・個別的な遊びの指導（季節行事、制作活動等）、体力の増進や情操を育む講座やイベント、地域活動支援（子育てサークル・子ども会等の育成・支援）、異世代交流事業（地域住民及び高齢者との交流や異世代交流団体の支援）</li> <li>施設貸出業務 施設の利用許可、利用料金の徴収</li> <li>維持管理業務 施設・設備の日常的維持管理及び保守点検</li> </ul> <p>※児童センターのほか、市が別途運営する施設として、家庭児童相談室（のびのび子育て課）、ファミリサポートセンター（地域子育て支援センター）、市民活動支援センター（市民協働推進課）がある。</p>
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	0～18歳までの児童とその保護者に対して、児童が安心して遊べる場を提供し、健康の増進と豊かな情操の発達を促し、児童の健全な育成を図る。また、保護者同士の交流の場や子育てに関する情報を提供して子育て支援を行うとともに、地域の高齢者との異世代交流等、地域と連携した行事開催をとおして、地域コミュニティの育成を図る。
（参考）基本事業の目指す姿	子どもが、安全に遊び、学び、世代交流できる場を提供する。

## 事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）

目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的な内容とスケジュール
・0～12歳までの児童及び保護者に対しては、従来からの方策により認知度向上が図られているが、13～18歳の児童に対しては大幅な来館増に寄与する効果的な方策を実施できておらず、減少傾向が継続している。	<p>〔令和3年度〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>R3. 10月 次年度修繕及び更新備品の希望調査 児童厚生施設の施設間協議</li> <li>R4. 1月 次年度事業計画における中高生取り込み方策について指定管理者に依頼</li> <li>R4. 3月 施設修繕及び購入備品の予算化 中高生取り込み方策を聴取 児童厚生施設の施設間協議</li> </ul> <p>〔令和4年度〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>R4. 4月～ 指定管理者による中高生取り込み方策の実施 施設修繕及び希望備品の購入</li> </ul>
改善内容（課題解決に向けた解決策）	・各児童厚生施設の指定管理者同士での協議の場を設け、中高生取り込みに対して実践的かつ効果的な方策を検討し、児童厚生施設ならではの価値創出を図る。

## 次年度のコストの方向性（→その理由）

<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 削減	
---	--

R03年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（R04年度の振り返り）	
R03年度の評価（課題）	R04年度の取組（評価、課題への対応）
新型コロナウイルス感染拡大の影響により、休館及び利用制限を行いながら事業を実施した。休館中は館内外の整備や講座開始の準備を進め、休館明けに子ども達が気持ち良く施設を利用できるように準備を行った。年度の後半、感染状況が落ち着いてきたため、中止をしていた講座や自主事業等を感染対策の工夫をしながら実施し、コロナ禍の状況においても可能な限り市民サービスを提供することができた。	新型コロナウイルス感染症の影響は受けたが、感染拡大予防対策を徹底し、講座やイベント等を実施することができた。各イベントの状況については、予約がすぐにいっぱいになってしまいほど人気が高く、内容も誰もが楽しめるような工夫がされていた。新事業についても、利用者の希望を取り入れながら事業が実施され、今後も地域や利用者との関係性を大切にしながら事業展開をしていく。

評価（指標の推移、今後の方向性）								
指標名		基準値（R02）	H30年度	R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	目標値（R08）
0～18歳までの施設利用者数（人）		7,541.00	33,791.00	32,141.00	7,541.00	15,611.00	22,173.00	35,000.00
		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）								
<input checked="" type="checkbox"/> 向上 <input type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 低下		昨年に続き新型コロナウイルス感染症の影響は受けたが、感染拡大予防対策を徹底し講座やイベント等を実施することができた。 利用者数は、コロナ禍前には戻っていないが、R3年度と比較して約1.4倍の利用者数となった。						
今後の事業の方向性（→その理由）								
<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input checked="" type="checkbox"/> 維持		新型コロナウイルス感染症が第5類に移行したことにより、今後更に利用者数が増加することが見込まれる。 今後は、コロナ禍により事業実施を控えていた講座等が実施できるよう、感染状況を考慮し、引き続き子ども達の居場所の確保、地域コミュニティの育成を図る。また、課題である中高生の取り込みに対し、今後も効果的な方策を検討していく。						

コストの推移						
項目		R02年度決算	R03年度決算	R04年度決算	R05年度予算	R06年度見込
事業費	計	41,475	43,912	44,787	53,678	53,678
	国・県支出金	4,821	6,132	5,982	5,982	5,982
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	314	210	314	210	210
	一般財源	36,340	37,570	38,491	47,486	47,486
正職員人工数（時間数）		614.00	447.00	406.00	0.00	0.00
正職員人件費		2,485	1,729	1,566	0	0
トータルコスト		43,960	45,641	46,353	53,678	53,678

## 令和4年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報			
事務事業名	南守谷児童センター運営管理事業	担当課	のびのび子育て課
総合計画 政策	ひと	計画期間	平成20年度～
施策	子育て支援の充実	種別	任意の事務
基本事業(取組)	安心して遊べる場の提供	市民協働	事業協力
予算科目コード	01-030205-02 補助	根拠法令・条例等	児童福祉法

## なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？

背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
昭和62年度に、児童に健全な遊びを提供し、健康の増進と情操を豊かにすることを目的に児童館が開館（久保ヶ丘地内）。その後、児童の健全育成のほか子育て支援拠点として新たな設置要望が高まり、平成15年度に守谷市児童館建設検討委員会が発足し、南守谷地区への新設も含めた施設整備について検討を開始。平成20年度に南守谷地区の児童センターとして開館した（指定管理者制度導入）。	<ul style="list-style-type: none"> <li>運営方法 指定管理者制度 ((株)こどもの森)</li> <li>指定管理期間 令和3年度から5箇年</li> <li>児童センター業務 児童に対する集団的・個別的な遊びの指導（季節行事、制作活動等）、体力の増進や情操を育む講座やイベント、地域活動支援（子育てサークル・子ども会等の育成・支援）、異世代交流事業（地域住民及び高齢者との交流や異世代交流団体の支援）</li> <li>施設貸出業務 施設の利用許可、利用料金の徴収</li> <li>維持管理業務 施設・設備の日常的維持管理及び保守点検</li> </ul> <p>※前年度との比較：主な増額分は、防犯カメラ改修工事によるもの。</p>
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	0～18歳までの児童とその保護者に対して、児童が安心して遊べる場を提供し、健康の増進と豊かな情操の発達を促し、児童の健全な育成を図る。また、保護者同士の交流の場や子育てに関する情報を提供して子育て支援を行うとともに、地域の高齢者との異世代交流等、地域と連携した行事開催をとおして、地域コミュニティの育成を図る。
（参考）基本事業の目指す姿	子どもが、安全に遊び、学び、世代交流できる場を提供する。

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的な内容とスケジュール
<ul style="list-style-type: none"> <li>0～12歳までの児童及び保護者に対しては、従来からの方策により認知度向上が図られているが、13～18歳の児童に対しては大幅な来館増に寄与する効果的な方策を実施できておらず、減少傾向が継続している。</li> <li>設備面に関しては、庇漏水による軒天パネルの浸水、庇側面の塗装剥離等、経年劣化が進んでいる。</li> </ul>	<p>〔令和3年度〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>R3. 10月 次年度修繕及び更新備品の希望調査 児童厚生施設の施設間協議</li> <li>R4. 1月 次年度事業計画における中高生取り込み方策について指定管理者に依頼</li> <li>R4. 3月 修繕及び購入備品の予算化 中高生取り込み方策を聴取 児童厚生施設の施設間協議</li> </ul> <p>〔令和4年度〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>R4. 4月～ 指定管理者による中高生取り込み方策の実施 指定管理者及び市双方による修繕の実施 希望備品の購入</li> </ul>

次年度のコストの方向性（→その理由）	
<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 削減	

R03年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（R04年度の振り返り）	
R03年度の評価（課題）	R04年度の取組（評価、課題への対応）
新型コロナウイルス感染拡大の影響により、休館及び利用制限を行いながら事業を実施した。休館中は館内外の整備や講座開始の準備を進め、休館明けに子ども達が気持ち良く施設を利用できるように準備を行った。年度の後半、感染状況が落ち着いてきたため、中止をしていた講座や自主事業等を感染対策の工夫をしながら実施し、コロナ禍の状況においても可能な限り市民サービスを提供することができた。	新型コロナウイルス感染症の影響は受けたが、感染拡大予防対策を徹底し、講座やイベント等を実施することができた。特に支援が必要な児童に向けてのインクルーシブスポーツ（ボッチャ）イベントを開催し好評を得た。中高生が楽しめるイベントや講座も取り入れたことで、中高生の利用が増えている状況である。

評価（指標の推移、今後の方向性）								
指標名		基準値（R02）	H30年度	R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	目標値（R08）
0～18歳までの施設利用者数（人）		11,538.00	41,029.00	38,229.00	11,538.00	21,804.00	31,321.00	45,000.00
		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）								
<input checked="" type="checkbox"/> 向上 <input type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 低下		昨年に続き新型コロナウイルス感染症の影響は受けたが、感染拡大予防対策を徹底し講座やイベント等を実施することができた。 利用者数は、コロナ禍前には戻っていないが、R3年度と比較して約1.4倍の利用者数となった。						
今後の事業の方向性（→その理由）								
<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input checked="" type="checkbox"/> 維持		新型コロナウイルス感染症が第5類に移行したことにより、今後更に利用者数が増加することが見込まれる。 今後は、コロナ禍により事業実施を控えていた講座等が実施できるよう、感染状況を考慮し、引き続き子ども達の居場所の確保、地域コミュニティの育成を図る。また、課題である中高生の取り込みに対し、今後も効果的な方策を検討していく。						

コストの推移						
項目		R02年度決算	R03年度決算	R04年度決算	R05年度予算	R06年度見込
事業費	計	43,512	38,604	43,270	44,023	44,023
	国・県支出金	4,821	6,132	5,982	5,982	5,982
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	855	288	392	288	288
	一般財源	37,836	32,184	36,896	37,753	37,753
正職員人工数（時間数）		407.00	425.00	403.00	0.00	0.00
正職員人件費		1,648	1,644	1,554	0	0
トータルコスト		45,160	40,248	44,824	44,023	44,023

## 令和4年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報			
事務事業名	放課後子ども教室事業	担当課	生涯学習課
総合計画 政策	ひと	計画期間	平成19年度～
施策	子育て支援の充実	種別	法定+任意
基本事業(取組)	安心して遊べる場の提供	市民協働	実行委員会
予算科目コード	01-100401-23 補助	根拠法令・条例等	社会教育法 守谷市放課後子ども総合プラン実施規則、守谷市放課後子ども

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	子ども達に関わる重大事件の発生など、青少年の問題行動の深刻化や地域や家庭の教育力の低下等の課題に対応し、心豊かでたくましい子どもを社会全体で育むため、地域の方々の協力を得て、平成19年度から学校等を活用するなど計画的に子ども達が安心して活動できる居場所を提供している。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	子ども達の安心・安全な活動拠点（居場所）を設け、学習活動やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動等の取組を実施することにより、子ども達の社会性、自主性、創造性等の豊かな人間性を育むとともに、地域コミュニティの充実を図る。
（参考）基本事業の目指す姿	子どもが、安全に遊び、学び、世代交流できる場を提供する。

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的な内容とスケジュール
新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、2年間中止していた活動の再開に向けて、実行委員会及び各学校運営委員会での議論が必要になる。 事業開始から10年以上経過し、活動内容も周知されてきており、今まで以上に活動内容の充実を図るために、参加児童や保護者の声を反映させていく。 学校施設の使用は、使用する教室や時間で管理責任や運営方法を整理する必要がある。 放課後子ども総合プランとして、運営業務委託者のモニタリングを定期的に行い、運営に関する質の向上を促進させる必要がある。	2月 アンケート配布 3月 アンケート回収 (次年度) 4月 放課後子ども教室開始（希望者2～6年生） アンケート集計 5月 効果後子ども教室開始（希望者1年生） アンケート結果をもとに運営業務委託者と活動内容について協議（活動内容によっては今年度から実施） 6月 放課後子ども教室体験日実施（希望者1～6年生） 10月 「コミュニティースクール」設立に向けての関係者との調整 通年 運営業務委託のモニタリング、第三者評価の検討
改善内容（課題解決に向けた解決策）	※例年だと上記のスケジュールとなる。令和4年度は、開催していないため、アンケート等は実施していない。
活動場所の確保や参加児童の要件及び活動時間の検討が必要であり、学校、保護者、地域の皆さんの意見聴取ができるよう、実行委員会及び各学校運営委員会で協議を行う。 子どもたちの安全な放課後の居場所とするためには、地域との交流や見守りが必要になることから、コミュニティ・スクール関係者との連携・協力に努める。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
■増加 □維持 □削減	令和5年度は、令和4年度同様、10月以降の再開を検討する。

R03年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（R04年度の振り返り）	
R03年度の評価（課題）	R04年度の取組（評価、課題への対応）
新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、通常子ども教室で借りている学校の空き教室を児童クラブで使用していたため、子ども教室は未実施であった。	令和3年度と同様である。

評価（指標の推移、今後の方向性）							
指標名	基準値（R02）	H30年度	R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	目標値（R08）
子ども教室開設数（教室）	15.00	9.00	12.00	15.00	0.00	0.00	15.00
子ども教室参加児童数（人/年）	283.00	31,500.00	47,799.00	283.00	0.00	0.00	42,750.00
成果の動向（→その理由）							
□向上 ■横ばい □低下	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和2年度～3年度同様、活動を中止した。						
今後の事業の方向性（→その理由）							
□拡大 □縮小 □維持	■改善・効率化 □統合 □廃止・終了	今後は、学校、委託事業者、地域ボランティア等と協議し、再開の方策を検討する。					

コストの推移						
項目	R02年度決算	R03年度決算	R04年度決算	R05年度予算	R06年度見込	
事業費	計	9,240	3,992	4,085	36,978	36,978
	国・県支出金	547	0	0	14,539	14,539
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	1,212	0	0	6,920	6,920
	一般財源	7,481	3,992	4,085	15,519	15,519
正職員人工数（時間数）	495.00	130.00	23.00	0.00	495.00	
正職員人件費	2,004	503	89	0	0	
トータルコスト	11,244	4,495	4,174	36,978	36,978	